

藻場造成活動の支援

南薩地域振興局林務水産課

【背景・目的】

鹿児島湾ではマメタワラ、ヤツマタモク、ヒジキなどのホンダワラ類の藻場が形成されているが、南薩地区の南に面した外海域では大規模な藻場は現在形成されていない。そのような中、南九州市や南さつま市では、これまで、ヒジキの母藻を挟み込んだロープを展開したり、ホンダワラ種苗ブロックを設置するなど、藻場造成活動に積極的に取り組んできた。しかし、その成果として未だ十分なものは得られていない。その原因は様々なものが考えられるが、植食性魚類による食害が、藻場形成を阻む大きな要因と考えられており、食害対策について支援を実施した。

【普及の内容・特徴】

1. 普及の内容

南九州市、南さつま市においては、市、漁業者グループなどが積極的に藻場造成活動を行っている。局としては、共に活動を行いながら食害対策に関する技術的な指導・助言を行った。

2. 各地での食害対策

番号	場所	対象種	展開方法	食害対策
①	知覧1	ヒジキ	ロープへの挟み込み	生簀内に設置
②	知覧2	ヒジキ	ロープへの挟み込み	鋼製の藻場礁内に設置
③	鰐娃	ヒジキ	ロープへの挟み込み	ロープ下部に敷網を設置
④	坊津1	マメタワラ、ヤツマタモク	種苗ブロック	上部が解放された網で包囲
⑤	坊津2	マメタワラ、ヤツマタモク	種苗ブロック	完全に網で包囲

【成果・活用】

各地の食害対策のうち、①、②、④、⑤については成熟期まで藻体を維持することはできたが、③については食害に遭い、成熟期まで藻体を維持することはできなかった。

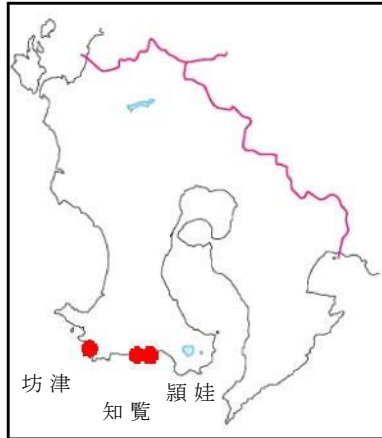
その要因として①、②、④、⑤については植食性魚類の侵入をほぼ防止できたのに対し、③については網の側張りの一部が浮力の減少や波浪による損傷により、植食性魚類の侵入を許したためと思われる。ただし、④については網の上部が解放されていたにもかかわらず、食害に遭わなかったことから、その原因について今後も検証を行っていく必要がある。

また、②については、藻場礁2基に、食害対策として目合い25mmと目合い15mmの網をそれぞれ設置していたところ、目合い15mmでは食害に遭わなかったのに対し、目合い25mmでは食害に遭うことが確認された。

【その他】

今年度の取組により、植食性魚類からの侵入を阻止できれば、成熟期まで藻体を維持できることがわかったため、成果が得られた手法による各地での自主的な取組を、引き続き促進するとともに支援していきたい。

藻場造成活動実施場所



ヒジキ母藻の挟み込み



ホンダワラ種苗ブロック

各地での食害対策の取組状況



①知覧 1



②知覧 2



③顚娃



④坊津 1

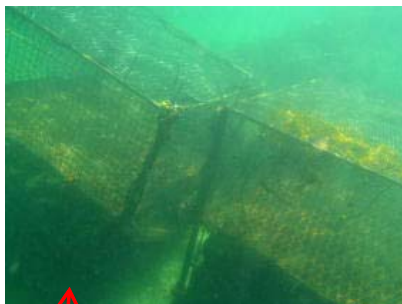


⑤坊津 2

追跡調査状況



①知覧 1



②知覧 2



④坊津 1

食害に遭った藻場礁
(目合25mm)

食害に遭わなかった藻場礁
(目合い15mm)